令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　⑮放課後児童支援員の仕事内容

◆　学童クラブで過ごす時間にいろいろな遊びをしますが、時には支援員も相手になりながらやっています。私たちも子どもへ注意するときの言動などに気を付け、子どもや保護者との信頼関係に配慮したいと思いました。月１回ある打ち合わせでは、子どもたちの様子や気にかかることなどの情報を出し合い共有しています。要望や苦情があった場合にも職員で適切に対応したいと思います。

◆　本科目を受講したことにより、放課後児童支援員の仕事の内容をより細かく学ぶことが出来ました。今まで自分が子どもたちへ掛けていた言葉が相手にとってどんな言葉として入っているのかを見直すことができ、良い声掛けができるよう気を付けていきたいと思いました。その他にも、キレやすい子どもへの対応などは今後役立てたいと思いました。

◆　いじめ、虐待、我慢ばかりしている、気持ちを理解してもらえない、または自分でも自分の気持ちを理解できないなど、様々な要因が複雑に絡みあってキレやすい子どもが目立ってきている現状を学び、子どもたち一人ひとりの心身の状況を把握してあげることの大切さを改めて感じました。子どもたちに声を掛け、短くてもコミュニケーションの時間を持つこと、職員同士の情報交換を常に行い、子どもたちの不安などを取り除けるよう努めたいです。

◆　子どもたちの育成支援のほかにも、安全チェックや衛生管理、おやつの準備や事務作業など様々なことがある。緊急時には子どもの安全が守られるように対応方針を作成し、定期的に訓練する。法令や守秘義務を遵守することはもちろん、研修への参加や定期的に職員同士の意見交換の場を設けることで事業内容を向上させていきたい。また、いつ、どんなことがクレームにつながるか分からないので、事前に対応を決めておくことの必要性を感じた。

◆　子どもたちが安心して生活できるように私たちは様々な仕事をしています。今回の講習では改めて自分がやっている仕事の重要性を感じました。学童クラブでは皆が同じことをやりたい訳ではないので、子どもたちの様子を見守ることができるよう、あちこち動いています。時には攻撃的な発言をする子どもを注意することもありますが、教えていただいたプラス言葉をフルに使って、子どもたちの長所を活かして楽しく過ごせるように見守りたいと思います。